

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200114		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西陣 ユニット2(3F)		
所在地	〒京都市上京区横大宮町219-1		
自己評価作成日	令和5年3月5日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JirgyosyoCd=2690200114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年4月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の尊厳を尊重し穏やかで温かい輪の中で「自分らしく、たのしい」生活を送って頂くよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国展開の株式会社ケア21は、京都市内に15のグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所を展開しています。西陣にある当事業所もその傘下にあり、周囲にはマンションや高層ビル群があり、それに囲まれるように古い家並みが点在する地域です。民家が少なく上に、コロナ禍以降、地域活動は滞り、その間に地域の高齢化も進みました。事業所としては、5月以降の政府の方針を見ながら、地域活動の再開を望んでいます。昨年8月に新型コロナウイルスの陽性者が複数発生し、その後は外出を控え、内向きの行事に工夫し、クリスマス飾り、手作りケーキ、節分の鬼のお面作り、ひな祭りや紫陽花などの季節の貼り絵を楽しんでいます。状況を見て、人出の少ない場所への外出ドライブに出かけ、そうした日々様子をブログにあげ、広く発信しています。また、リモートで職員研修をおこない、外国人技能実習生には母国語で研修をし、事後のテストで到達点に達しない職員には個別のカリキュラムも用意し、スキルアップを図っています。クリニックや開業医の協力で看取りもおこない、家族に見守られて穏やかに逝き去られた方もあり、本人や家族の思いが大切にされる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所でビジョンを作成し、それに基づき支援を行う。毎年見直しを行い、ビジョンを共有している。	毎年9月頃から、法人理念をもとに事業所ビジョンを定めて本社に提出し、承認された後、11月1日を起点として、実践に取り組んでいる。事業所ビジョンは前年度の振り返りをもとに策定し、今年度は、「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」としている。その中に、生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の三つの大項目を設定し、各々の項目に対して、実現可能な具体案を盛り込んで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域交流を制限している。	町内会の準会員として、町費を収め、地蔵盆のお供えを分けてもらうなどしていたが、コロナ禍の現在は表立った交流はない。事業所敷地内に掲示板を設け、地域住民に有効に利用してもらっている。地域の商店でイベント用のケーキを買ったり、チラシをチェックして地元のスーパーに品物を届けてもらうなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録を地域包括支援センター、民生委員の方へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回運営推進会議開催。この一年事業所内の職員のみで開催しているので地域包括支援センター、民生委員の方へ資料配布し、意見を頂戴している。	地域包括支援センターなどから事前に意見聴取をして、1階の事業所と合同で運営推進会議を书面開催している。地域包括支援センターからは、事故再発防止への取り組みや、感染対策、外出レクリエーションへの一定の評価を得ている。しかし、コロナ禍ということで、地域課題や地域との共存の視点が乏しく、参加スタッフの少なさもあり、運営推進会議本来の機能を十分に発揮できず、施設内会議のような様相を呈している。議事録は本来の参加者や、全家族、行政に配布している。	この1年、運営推進会議は事業所内だけでおこない、外部からの意見は限定的でした。5月から政府の新型コロナ対策が転機を迎えることもあり、事業所は運営推進会議の対面開催を考慮しておられます。利用者の平均介護度が1.6と、自立度の高い階もありますので、利用者にも会議に参加してもらい、民生委員や地域包括支援センターなどを含めた、外部の方との活発な意見交換が期待されます。議事録には会議の開催時間、場所、書記名の記入もお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ発生時、日々の状況報告等連携を図りました。	8月のコロナ陽性者複数発生の折は、市保健福祉局の介護ケア推進課や上京保健所と連携して、終息に向け協議した。事故報告を行政におこなっている。また、日頃から、実務上分からないことは随時間い合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回身体拘束の研修を行っている。フロア会議や日々業務の中で相談し合っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を備え、全職員にリモート(Cトレーニング)による、20項目の自己点検と、履修テストを課している。基準点に満たなかったり、途中で問題が見つかった職員は、管理者や本社の個別指導を受ける。外国人技能実習生にも母国語での研修を義務付けている。帰宅願望の強い方はいないが、日頃の支援で不適切事例はないか、ユニット会議などで振り返っている。	身体拘束適正化検討委員会の記録が毎回同じような内容で、詳細さに欠け、問題意識のマンネリ化が懸念されます。身体拘束の事例はありませんが、人権と安全両面の視点から、センサーマットや鈴などの位置づけや、言葉での拘束の検証などもおこない、常に問題意識を持ち続けて臨むよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の社内研修を行っている。フロア会議や日々の業務の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行っている。後見人の方がおられるのでケアマネを通じて関係を築いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を全て伝え、本人様、家族様が納得理解されるまでご説明しサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。(コロナ禍で面会等制限していますが、玄関までは誰でも入れます)会社としてお客様満足度調査を実施している。	家族に年1回本社からアンケートが届き、満足度を調査している。8月に新型コロナ陽性者が複数発生し、以後面会が厳しくなり、暫くライン面会のみだったので、面会への要望が多い。状況により相談室での面会や、玄関越し面会など、違う方法を取っている。加湿器への問い合わせや、利用者の好物の差し入れ希望、墓参の希望などもあり、事案ごとに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見交換し、対応が可能であれば取り組むようにしている。本社宛に職員誰でも提出できる業務改善提案書があります。	毎月のユニット会議や2か月ごとの全体会議、普段のリーダーのヒアリングなどで意見を言う機会がある。車椅子用リフト車の取り扱いがわからないという意見があり、マニュアルを作り、周知した。「誰伸びシート」での加点式人事考課や、部署異動の希望や、キャリアアップ・自己研鑽のための「挑戦シート」など、法人全体で個人の希望や意欲を生かす取り組みをしている。一旦家庭の事情で退職した職員も、働きやすいと再就職をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度(人事考課)・技能段位制度で職員の努力や実績を評価し、給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、部門別研修、チューター制度にて1人1人のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時にご本人のニーズを導き出し、安全に生活して頂けるよう調整し関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの時に家族様からの困りごと等できるだけお聞きし、これからの施設での生活に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々が必要とされる支援を見極め、サービスの提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業やレクリエーション、座席の配置等を考慮し、より良い関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を共有し、現状を知って頂く。急なLINE面会、窓越し面会にも対応し、家族様との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人からのお手紙のやり取りや、電話をとりあっている。	家族や友人からの手紙や電話、面会の支援もしている。トランプ、かるた(百人一首)、貼り絵、塗り絵、風船バレーボールなどの運動や、口腔体操、歌、CD・ビデオ視聴、洗濯物畳みなど、夫々が馴染んできたことの継続を図っている。行きつけの美容院に行っていた方は、コロナ禍以降、訪問理美容に切り替えている。掃除の好きな方は職員とともに掃除をしている。職員が毎月写真入りの近況報告を家族に送り、様子を伝えている。家族と墓参に行かれる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのより良い関係構築の為に座席等を考慮し、ご利用者同士の関係性を支援している。必要時にはテーブルの配置変更等、柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを大切に、些細な事でも情報共有に努めています。ご本人様の意向を伝えられない場合でも表情や仕草の観察、家族様と相談しながら本人の意向の把握に努めている。	日頃のコミュニケーションから本人の思いを汲み取り、得た情報は連絡ノートやタブレットの申し送りの項目に書き留めている。フロア会議で情報を共有し、介護支援専門員が6か月に1回アセスメント表に追記している。焼きそばが食べたいなどの希望はイベントで実現している。寿司などは家族に持ち込みを依頼している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に生活状況や不安な事の確認を行い、ご希望に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や管理日誌、医療機関を通じて、心身の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットの計画作成が中心となり、他職種間での意見を調整し、チームとして質の高い計画作りに努めている。	施設サービス計画には、医師・看護師・薬剤師・介護職などの多職種や、家族の意見を取り入れている。計画は、本人に即した丁寧なものとなっている。入浴の項目では、染髪洗身は本人がおこない、浴槽出入りは職員が転倒予防の見守りをするなど、自立支援の立場と専門家として必要な支援をバランスよく盛り込んだ計画を立案している。施設サービス計画は原則6か月ごとに更新するが、状態変化があれば、随時更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを職員間の情報共有に使用している。毎月のフロア会議にて情報交換や居室担当者に個別でヒヤリングを行い、プランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズの把握・検討を行い、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、積極的な資源活用に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までかかっていた主治医か施設の協力医療機関かを選択して頂いている。	地域の協力医の月2回の診療や、精神科の医師の月1回の診察がある。従来からの医師にもかかれるが、現在は全員協力医に移行している。提携の歯科医の毎週の訪問があり、必要な方は診察を受け、他に歯科衛生士の口腔ケア指導も受けている。訪問看護師が月4回来所して健康管理をしている。訪問マッサージは家族の希望はあるが、コロナ禍以降中断している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護に診て頂いている。体調不良等あれば相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケアマネを中心に早急に情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明を行っている。週末期には家族様、主治医を交えたカンファレンスを開催し、最良の支援に取り組んでいる。	24時間体制で指示を仰げる協力医があり、重度化にも対応できている。看取り指針を策定し、条件により、事業所での看取りも可能である。病院では家族が病室に入れないので、事業所での看取りを希望される方もある。研修は各職員がリモートでおこない、随時訪問看護師などの指導も受けている。今年度は1名看取り、孫も看取りに立ち合う事ができ、家族に感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や事故時のフローチャートを作成していざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画の作成、年2回の消防訓練を行っている。	併設事業所と合同で、年2回、消火・通報・避難誘導訓練をおこなっている。そのうち1回は夜間想定でおこない、利用者は以前の消防署の指導をもとに、ユニット入口を出て踊り場に集まっている。参加者は訓練後に振り返り、次回につないでいる。コロナ禍のため消防署の来所はなかったが、令和5年度からは、消防署の来所指導を依頼する予定である。備蓄は水やご飯、粥、乾パンなど3日分用意している。救急救命やAEDの研修、地震想定訓練はできていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年一回接遇研修を受講している。相手を説得するのではなく、受容と共感をもって接するように努めている。	接遇の職員研修は動画で受講し、「挨拶・笑顔・お辞儀」「手の動きと態度」「誘導の仕方」などテーマごとに視聴している。チェックリストの正答率が7割以下の場合は、再度違う内容の動画を見てやり直し、報告書を提出している。管理者は報告書を確認し、不都合があれば面談・指導をしている。利用者との円滑なコミュニケーションのために、アセスメントを読み込み、その人に合った話題の提供や、笑顔になれるような声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、日常生活の中でのご本人の希望等を尊重している。		

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット2(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転には注意しながら休みたいと訴えあれば居室で休んで頂いたり、ご本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容やなじみの化粧品の購入等、ご本人の希望を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳できる方には、して頂いている。調理や洗い物はコロナ禍で行っていない。	業者から配送された食事を温めて提供している。咀嚼・嚥下状態に合わせて、ペースト状の食事は業者に頼み、きざみ、ミキサー食や、とろみをつけるなどはユニットでおこなっている。ご飯やお粥はユニットで炊き、塩分過多を防ぐためにみそ汁は止めているが、希望により提供する場合もある。病態食は実施していない。食器を分けて盛りつけると食べ残しがある方は、ワンプレートの皿も利用している。できる方は下膳やお盆拭きなどを行っている。食事やおやつのリクリエーションはできなかったが、誕生日祝いに、本人が希望する焼きそばを作ると、炒める音やソースの匂いに目を輝かせておられた。また、デコレーションケーキのトッピングにフルーツを一杯載せると喜ばれた。技能実習生の郷土料理も好評だった。	家庭的な料理を温かみのある食器でいただくことは、グループホームの重要なコンセプトです。自分の祖父母や父母ならどうかという目線で、職員の手間の省力化より、利用者の満足を優先し、食材・食器の選定は慎重にされるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できるようコーヒーや紅茶等好みに合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。週一回の訪問歯科による口腔内のチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録の排泄状況を確認し、個々のパターンの把握に努めている。カンファレンスにてオムツ等の必要性を検討している。	平均介護度1.6というユニットで、大半が自立してトイレに行っている。布パンツ使用の方が3分の2おられ、立位や歩行の不安定な方は、切迫性失禁の予防のため、リハビリパンツやパットを使用して様子を見ている。排泄の量や間隔などを記録し、フロア会議でその人にあつた排泄用品を考え、家族とも相談して、パットなどを変更している。夜間立ち上がり不安のある方はポータブルトイレを使用している。	

京都府 グループホーム たのしい家西陣 ユニット2(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を提供したり、主治医に確認のもと排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の固定はしていない。週二回以上入浴して頂けるよう、その日の体調やご気分と相談しながら入浴して頂いている。	週2回、午前中に入浴をしている。曜日は特に決めず、その日の体調や気分を見て入浴を勧めている。同性介助の希望に応える用意はあるが、希望はない。拘縮の強い方は医師と相談して清拭している。皮膚トラブルのある方には足浴をしている。湯は1人ずつ変え、皮膚疾患の方は最後になるようにしている。湯温や湯量の希望も聞いている。浴後は保湿剤を塗布している。シャンプーなどは、希望のものも使える。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、日時の変更で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な起床就寝時間はありますが、お一人お一人に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬があるので職員全員が把握できるようにしている。わからない事は薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手摺り拭きや洗濯物たたみ等、自身の役割をもって頂き、充実した生活を送って頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、出来ていない。	法人の方針でコロナ禍での普段の外出はしてこなかったが、受診や墓参りで、家族との外出はできた。また、車中ドライブで宝ヶ池の子供の樂園に出かけたり、三千院の紅葉狩りや近場の首途八幡宮の花見に出かけるなどしている。職員とゴミを出したり、敷地内の駐車場で椅子に座り外気浴をしたり、花を愛でたりしている。4月から外出ができるようになり、家族との面会の後に近くの公園への散歩やユニットごとの外出計画も考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様確認のもと、お金を自身で管理されている方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方おられます。特に制限はなく、使用方法等に問題が出てくればご家族様と相談しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物や色あい等、落ち着いた空間になるように配慮している。職員が描いた似顔絵や季節毎の飾りつけ等、楽しくも落ち着きのある空間作りに努めている。	ユニット入口の壁には花の絵画が飾られ、靴箱の上には、寄贈の鏡や手作りの短冊や雛人形の色紙が置かれている。リビング内には対面式キッチンがあり、その手前に洗面台が3台ある。洗面台使用時の順番を待つ椅子が2脚、その横にソファが置いてあり、その椅子やソファで寛ぐひとときもある。南側と西側の窓からの採光はよく、西陽対策に遮光カーテンを設けている。2台の空気清浄機があり、常時窓を開けて換気をしている。大きなテレビや時計、カレンダーが見やすい位置に配置されている。壁面にある職員との合作の大きな桜の木が季節を告げている。洗濯物をたたんだり、新聞を読んだり、おしゃべりをしたり、体操をしたりと、思い思いの過ごし方をされている。食後に居室に戻られる方もある。掃除は主に職員がするが、利用者も手すりを拭いたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、いつでもだれでも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた筆筒等家具をお持ち頂いたり、居心地がよく安心して過ごせる環境作りを心掛けている。	居室がわかりにくくなる利用者には、名前を大きく書いて目に触れる位置に貼り、迷わないようにしている。他は扉の横に部屋の番号と利用者の名前のプレートをかけている。室内には、家からの馴染みの寝具や衣類、テレビ、タンスなどを持ち込み、プリザーブドフラワーやぬいぐるみ、自作の雛飾りや色紙の手作り作品などを飾っている。CDラジカセや、編みものなどを持ってきている方もいる。ベッドや空調、カーテン、大きなクローゼットが予め備わっている。掃除機は職員がかけ、できる方は職員と一緒に拭き掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等場所がわからない方もおられるので、わかるように自室に名前を貼ったりトイレの場所を矢印で示したりしている。		